

又信



第104号

ゆう しん かい
又 信 会 会 報
令和6年10月発行



[新香川県立体育館：あなぶきアリーナ香川]

高松高等商業学校
高松経済専門学校

香川大学 経済学部
香川大学 法学部
香川大学 商業短期大学部

寄稿

私の健康法



又信会会長

対馬 健三

(経20)

謹啓、猛暑日が続いた暑い夏が終わり、秋晴れの過ごし易い季節を迎えましたが、又信会の皆様方におかれましては、お元気で過ごされたことと拝察申し上げます。

昨年の経済学部創立100周年に際しましては記念募金へのご寄付、記念碑贈呈、記念式典・祝賀会など、ひとかたならぬご協力を賜り、おかげ様で無事終了する事ができました。心から感謝申し上げます。

高松では高松駅周辺（サンポート高松）1万人収容の県立アリーナ（県立体育館）が来春完成予定で、オーブニング行事の1つとして4月2日に香川大学の入学式が開催されます。

8月にパリで開催されたオリンピックは3年

前のコロナ禍のために無観客だった東京オリンピックとは違って変わり会場は熱気で溢れ、日本人選手が大活躍で、地元フランスを上回り20個の金メダルを獲得するなど、大いに盛り上がりました。

さて、新聞の報道によりますと日本人の平均寿命は男81・09歳 女87・14歳で、女性は世界一、男性は世界第四位の長寿国だそうです。健康寿命は（男72・7歳 女75・4歳）。健康寿命を延ばす為には左記の事が大切だと言われています。

- ① タバコは吸わない。
 - ② 過度の飲酒は控える。
 - ③ 食事はバランス良く（塩分を控える）
 - ④ ウォーキングなどの運動を行う。
 - ⑤ しつかり睡眠を取る
 - ⑥ 社会的関係を保つ
 - ⑦ 定期的に健康診断を受ける
- 今回はこれにプラスして私が今までに心掛け、実行してきた良かった事を書き綴ってみます。

私の健康法

◎ 髪の毛の手入れについて

髪は女の命と言われていますが、男にとっても重要な要素です。

【育毛剤】…昨年の会報又信に病気の話を書

きましたが、50才の時に胃ガンの手術を県立中央病院で受け、その後、経過観察で2ヶ月毎に病院に通っていました。

診察の後、病院で薬を処方してもらって飲んでいましたが、国の方針で医薬分業となり、薬は処方箋をもらって調剤薬局でもらうことに変更になり、薬局のリストを見たら病院の近くと同級生の薬局があったので、そこへ行きました。薬を受け取って帰ろうとしたら同級生から「ちょっと待って」と呼び止められ、「新しい育毛剤が発売されたから使ってみない？」と勧められ、「俺は髪が多いので必要無いわ」と返事すると、「髪が多い時から使うと効果があるんや!!、ハゲてからでは遅い!!」と、勧められたのが大正製薬の【リアップX5】でした。

1本（1ヶ月分）7,500円と高いので、もったいなく思ったのですが、同級生の店だし、断りにくかったので買いました。以来25年に渡り、朝・晩、頭に付けています。

リアップの成分には血管拡張効果があるミノキシジルが含まれています。

商品名【リアップX5】とはミノキシジルが最適濃度5%で含まれている意味だと推測されます。最近TVで宣伝されている様々な育毛剤も、ほとんどがミノキシジル5%です。

リアップを毎日続けているおかげで後期高齢者になった今でも髪の毛は多く、白髪もほとんどありません。絶対おすすめです。

【シャンプー】・・・シャンプーは昔S M A PがTVで宣伝していた【スカルプD】を使っています。価格は3,980円と高いですが、髪にポリウレーム感が出ます。

【ドライヤー】・・・シャンプーの後、安いドライヤーで髪を乾かすと、髪が痛みます。風量の多いドライヤーで素早く乾かすことが大切です。価格は3万円の商品をお勧めします。ドライヤーをかけながら全身のツボが集中している足裏を、年の数を数えながら竹踏みマッサージをしています。

◎目の手入れについて

50才ぐらいの頃、新聞の字がぼやけて見えてきて、何とかしなければと思い、いろいろ調べると【D H A】(ドコサヘキサエン酸)：青魚に含まれるサラサラ成分が目には良いと知り、このサプリメントも25年間毎日飲んでいました。おかげで老眼にもならず、細かい字もメガネ無しで見えています。他にもブルーベリーも目に良いと言われています。

◎肌の手入れについて

【コラーゲン】と【養命酒】を毎日飲んでいきます。コラーゲンは皮膚や骨、血管などの組織を構成する要素で、肌のツヤが良くなります。養命酒は400年前からの超ロングセラー商品で14種類の漢方薬が体の温度を内側から高めてくれます。

◎姿勢について

人間、年を取ってくると徐々に歩く姿勢が悪くなり、背骨が曲がり、前かがみになり、歩幅が短くなりトボトボと歩くようになりがちです。自分では気付かなかったのですが、以前に友人から「背筋が曲がっている」と言われ、何とかしなければいけないと思い、5年前より社交ダンスを習い始めました。社交ダンスを習ってダンスパーティーに出ようなんて気持ちは毛頭無く、背筋を伸ばすだけの目的で週に1回通っています。同じ教室に88才の男性がいますが、ビツクリです。

最近、背筋を伸ばしサポーターを買いました。テレビで宣伝している物は6,000円位しますが、アマゾンで2024年ベストバイ受賞商品・トリプルエス【ドクターマグザム】(税込3,280円)を買いました。これを着けて毎朝30分のウォーキングをしています。

私のモットー

☆体に良くないことは、やめる!!

☆体に良いことは、何でもする!!

以上が私の健康法です。
参考になれば幸いです。



[令和5年度 東京支部総会にて]
左から小山幹事長、対馬会長、畑 日本ハム前社長、長山経済学部長、岩田東京支部長

少子化について



経済学部長

長山 貴之

厚生労働省の人口動態調査によれば、2023年の出生数は概数で72万7277人でした。

本号が皆さんのお手元に届く頃には確定数が公表されているはずですが、大きな差はないはずです。今から20年前の2004年の出生数は111万0721人でした。出生数が110万人台であった最後の年です。その翌年の2005年には出生数が106万2530人となり、前年から5万人近く減少しました。当時は新聞や雑誌で盛んに取り上げられましたので、ご記憶の方も多いと思います。その後、出生数は緩やかに減少し、2015年に100万5721人となるまで、11年間にわたり100万人台が続きます。今後も緩やかな出生数の減少が続くものと私を含めて多くの人が思っていました。

しかし、事態は急変します。2016年に97万7242人、2017年に94万6146人、2018年に91万8400人と出生数は急減し、

わずか3年間しか90万人台を維持できませんでした。

さらに、事態は悪化します。2019年に86万5239人、2020年に84万0835人、2021年に81万1622人と出生数は急減し、わずか3年間しか80万人台を維持できませんでした。

この頃になると、私を含めて多くの人が事態の深刻さに気が付きました。2022年に77万0759人、2023年に72万7277人と出生数の急減は続き、70万人台を維持できるのは長くとも3年間であろうと思われる。繰り返しになりますが、今から20年前の2004年の出生数は111万人余りでした。本邦の歴史上、類例のない出生数の減少です。

合計特殊出生率という指標があります。合計特殊出生率は、正確には「15〜49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」なのですが、一般には「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」と見なされています。この合計特殊出生率は地域間の差が大きい指標として有名です。例えば、2023年の合計特殊出生率を見ると、日本全体では1・20ですが、最も低い東京都は0・99、最も高い沖縄県は1・60と大きな差があります。しかし、合計特殊出生率は出生数を規定する要因の一部に過ぎません。人口千人当たり出生率を見ると、日本全体では6・0ですが、東京都は6・4です。東京都の23区に

限っても6・4に達します。北海道は4・8に過ぎませんし、東北地方で最も高い宮城県でも5・5に過ぎません。関東地方もすべての県が東京都より低くなっています。中部地方では愛知県が6・7で東京都より高くなっていますが、ほかの県はすべて東京都より低くなっています。つまり、東日本で最も高いのが愛知県で、次に高いのが東京都です。我々が実感する出生率に近いのは、合計特殊出生率でなく、人口千人当たり出生率です。なぜ両者がこれほどまで乖離するかというと、若年女性が大都市、特に東京都に移動しているからです。東京都の合計特殊出生率は極めて低い水準にあります。他の道府県から若年女性が流入するので、人口千人当たり出生率は高くなるのです。そのため、東京都では少子化の影響を実感しにくくなります。逆に、人口千人当たり出生率が4・0まで低下している秋田県では、合計特殊出生率が1・10であったとしても、少子化の影響を強く実感できます。

2023年の香川県の出生数は5365人に過ぎません。香川大学の学士課程の定員は1239人で、1年次の現員は1295人（うち女子は639人）です。2023年度の香川県の高校卒業生数は7988人で、大学等進学者数は4661人でした。大学等進学率は58・35%になります。今後、どこまで大学等進学率が上昇するかは解りませんが、頭打ちが近づいてい

るように思われます。近い将来、香川県の大学等進学者数が3千人台前半まで減少することはほぼ確実です。香川大学の学士課程の定員1239人を維持することが容易でないことは言を俟ちませんが、高等教育にも規模の経済が作用する以上、学士課程の学生定員を維持する努力を怠る訳には参りません。

香川大学経済学部は2018年に大規模な改組を行い、経済学科、経営システム学科、地域社会システム学科の3学科制から1学科5コース制に移行しました。現在は、経済学科の下に、経済・政策分析コース、会計・ファイナンスコース、経営・イノベーションコース、観光・地域振興コース、グローバル社会経済コースが設置されています。また、これら昼間コースとは別に、夜間主コースも設置されています。学生定員は昼間コースが240人、夜間主コースが10人、計250人です。これは1971年に管理科学科が設置される前の学生定員240人とほぼ同水準です。当時は経済学科120人、経営学科120人でした。これに管理科学科40人が加わって、1971年に学生定員が280人となりました。学生定員の維持は教員数の維持につながり、教員数の維持は授業科目数の維持につながります。授業科目数を維持できなければ、カリキュラムを維持できません。2024年には教員数が42人まで減少しています。これ以上の教員数の減少は、なんとしても避けたい

ところです。

今後どれだけのことを我々ができるかは解りませんが、我々にできることはすべてするつもりです。又信会の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



香川大学法学部の現状と課題…地方国立大学法学部との比較を通じて



法学部長
堤 英 敬

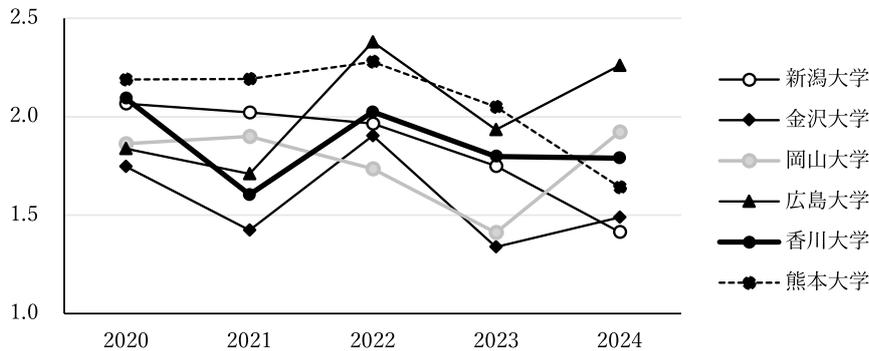
近年の地方国立大学を取り巻く環境は、18歳人口の減少、地方から都市部への人口流出、大学進学率の高止まりなどを背景に、厳しさを増しています。地方大学は、知の拠点として地域ならではの人材を育成・定着させ、地域経済・社会を支える基盤となることが必要（文科科学省「魅力ある地方大学の実現に向けて」令和2年9月）だとされていますが、こうした役割を果たすために何が必要なのかを考える上で、現状を客観的に把握しておくことは重要な作業と言えます。そこで今回は、他の地方国立大学法学部（具体的には、地方国立大学法学系学部連絡会に参加している新潟大学、金沢大学、岡山大学、広島大学、熊本大学）との比較を通じて、香川大学法学部の現状と課題についてお伝えし

たいと思います。

まず、法学部を目指す受験者の動向について見ていきましょう。図1は、一般選抜（前期日程・後期日程）における実質受験倍率（受験者数÷合格者数）の推移を表しています。なお、大学によって入試制度は大きく異なります。例えば、岡山大学や金沢大学は後期日程を実施していませんし、新潟大学のよ

うに、定員の3割を学校推薦型選抜で募集している大学もあります。こうした点に留意しながら、図1を見ると、いわゆる隔年現象による上下動はありつつも、どの大学も全般的には受験倍率が低下傾向にあることが分かります。香川大学も例外で

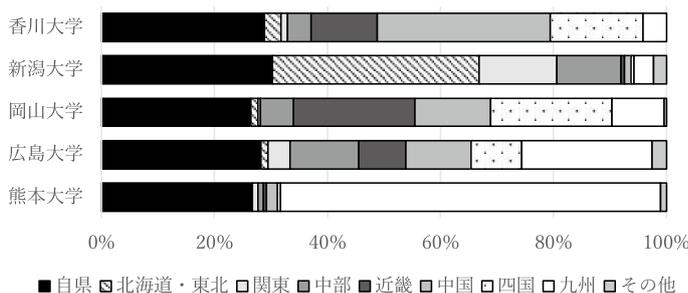
図1 一般選抜（前期日程・後期日程）の実質受験倍率の推移



その傾向が特に強いのが熊本大学や新潟大学で、熊本大学は九州出身者が9割を超え、新潟大学は新潟県と北海道・東北地方の出身者が2/3を占めています。他方で、広島大学や岡山大学は、同じ中

次に、各大学の法学部に、どの地域の出身者が進学しているのを見たいと思います（図2参照）。ここからは、いずれの大学も自県出身者が3割程度を占めていることが分かります。また、各大学とも近隣地域からの進学者が多くな

図2 合格者・入学者の出身高校の所在地の分布（令和6年度）



注：金沢大学は公式の資料を入手できなかったため省略した。

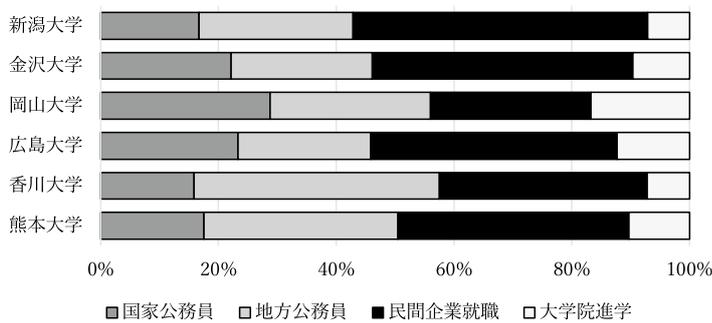
国地方に両大学が所在していることもあって、出身者が地域的に分散する傾向が見られます。香川大学は、中国地方出身者（特に岡山県）が多いという特徴がありますが、熊本大学や新潟大学ほど地域的な偏りがあるというわけではなく、比較的幅広い地域から進学されていると言えるでしょう。ただ、割合で見ると四国出身者の比率は岡山大学の方が高く、今後、いかに四国から学生を獲得できるかが課題だと言えます。

ところで、国立大学であっても、合格者が皆、その大学に入学するとは限りません。ただし、受験生は一般的に前期日程で第一志望の大学を受験し、「滑り止め」の大学を後期日程で受験しますから、前期日程の「入学率」（入学者÷合格者）は高くなるのが想定されます。実際、各大学の前期日程の入学率を計算してみると、岡山大学や広島大学では、過去3年の平均で97%となっており、他の大学も90%を超えています。しかし、香川大学の場合は88%と、地方国立大学の法学部としては最も低くなっています（それでも、5〜10年前よりは高い値となっています）。また、本学が新入生に実施したアンケートによれば、香川大学を第一志望としていた学生の割合が、香川大学の6学部の中で最も低かったのが法学部でした。つまり、香川大学法学部に進学したくて香川大学を受験し、入学したという学生が相対的に少ないのが、実状

だと言えます（私も、学生の「本当は神戸大学や岡山大学に行きたかった」という声をしばしば耳にします）。もちろん、仮に「不本意入学」であったとしても、大事なことは入学した大学で何を学ぶかですが、香川大学法学部に進学したいという受験生をいかに増やせるかは、私たちが取り組むべき課題だと言えるでしょう。

最後に、各大学の法学部生の進路についても触れたいと思います。図3は、各大学法学部を卒業した学生の進路の分布（令和4年度）を示したものです。ここからは、大学によって多少の違いはありますが、概ね半数前後が国・地方の公務員になり、約4割が民間企業に就職し、約1割が進学していることが見て取れます。いわゆる旧帝大と比較すると、特に地方公務員になる者の割合が高く、地方国立大学法学

図3 卒業後の進路（令和4年度卒業生）



部は、公的部門で地域に貢献する人材の育成に寄与していると言えます。ただし、各大学とも、大学が所在する県へ就職する者の割合は3割程度で共通しており、他県からの進学者の多くが出身地に帰ったり、都市部へと移動したりしていることが窺われます。

進路に関する香川大学の特徴としては、まず、公務員となっている卒業生がやや多いことが挙げられます。2010年代半ば頃まで、香川大学法学部は他の地方国立大学法学部と比べると公務員になる学生が少ない傾向にありましたが、様々な支援を行うことでその差を埋めることができました。他方で、ロースクールなどの大学院への進学者がやや少ないことも、香川大学の特徴と言わざるを得ません。本学部では昨年度から、法曹を目指してロースクールへの進学を希望する学生のための「法曹プログラム」をスタートさせましたが、引き続き、法曹志望者の支援を図っていきたいと考えています。

冒頭にも述べたとおり、地方国立大学を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。こうした中では、今まで以上に、受験生にとっていかに魅力的な学部となるか、また、いかに社会に貢献できる人材を養成するかが問われていると言えるでしょう。魅力ある学部づくりに一層努力して参りたいと考えておりますので、今後とも、先輩方からのご指導、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

特別寄稿

大平正芳総理と

マブチモーター



中山 信之

(元マブチモーター専務)

はじめに

又信会の皆様、初めまして。先ずは、私ごとき門外漢が、なぜ由緒ある貴「又信会」の同窓会誌に寄稿の榮に浴したのか、そのいきさつにつき、ご挨拶かたがた触れさせて頂きます。

先ず、そもその話しの発端は、私自身、齢八十七歳に達し何かと終活を急かされる中であって、真っ先に思案を迫られることがあったのでした。それは、私がマブチモーター時代

にお世話になった大平総理から賜った自筆の色紙や著書等について、「どのように礼に叶った遺し方があるのだろうか」という自問からでした。

たしかに、これらの品々は、私にとりましてかけがえのない家宝であります。しかし、核家族化の時代にあつて、それらを子々孫々に遺すことがはたして可能かどうか、はなはだ心許ない時代相でもあります。しかもたとえそれが叶ったとしても、それ自体、社会的には貴重な文化遺産の退蔵ではないか！ だとすれば、むしろ公的機関にお預けして世のため人のため役立てて頂く。その方が大平総理のご恩顧に報いる道ではないか。

そう言えば、私自身、高松の産でマブチ引退後は里帰りの身であること。しかも、大平総理の母校・旧制高松高商（現・香川大学経済学部）がすぐそばにあるではないか。そうだ！ お願ひするに最もふさわしいのは、貴同窓会・又信会を措いてほかにない。善は急げ、ということとで早速ご相談に参上し、ありがたくもその意の通り格別のご高配を賜る僥倖を得ました。

しかもそのご縁で、貴同窓会事務局長・大西秀志様より、「大平先生とマブチモーターとのことどもについて寄稿を」とのありがたいお言葉を賜り、茲許、拙文を寄せさせていただくこととなりました。

大平先生とマブチモーターとのご縁

同郷のご縁、創業時の馬淵兄弟の青雲の夢を多とされ出資を賜った恩人

さて大平先生とのご縁ですが、マブチモーターの創業者馬淵健一・隆一兄弟（高松市花の宮出身）が香川県の同郷であったこと、そのよしみで戦後、馬淵健一社長が発明・特許を得た「マブチモーターで世界制覇を！」との青雲の夢を大平先生に誠意をこめてアピール申し上げたのが始まりです。

一見大風呂敷に思えるその夢につき、用途に無限の可能性がある小型直流モーターであればこそその所以を縷々ご説明申し上げ、その目指すところをご理解いただき、大いなる激励を賜ったとお聞きしています。

そのような馬淵兄弟の青雲の夢を多とされ、マブチモーター創業当初から出資の榮に浴し、爾来、長年にわたりかけがえのない株主として何かとご指導くださいました。

ステークホルダーとしての偉大な存在感、マブチの社風善導の恩人

政治家と企業との関係と申しますと、近ごろ喧しい好ましからざる間柄を連想されそうですが、大平先生におかれては、その連想は全く当てはまりません。

長年賜ったご指導を通じ、清廉潔白・公明正

大さを信条とされている大平先生の人格に触れ、われわれ経営陣はすべからず自ら襟を正す術を教えられました。その意味で、大平先生はマブチモーターの社風善導の恩人と申し上げて過言ではありません。

特に大平先生に、創業期において株主になって頂いたこと、それは稀有な幸運と恩恵の極みでした。経営陣にとっては、「大平先生にご迷惑をかけてはいけない」という暗黙の緊張感・責任感を共有する貴重な機会となり、当然ながらその波及効果は抜群でした。

近年、コーポレートガバナンスとかコンプライアンスとかが喧伝されて久しいですが、そう言われてみれば、ひるがえってマブチモーターでは、町工場の時代からそれを先取りして来たのではないか。そのように自負することができ、のも大平先生のお蔭です。その後のわが社の着実な事業展開とそれに伴う堅実な経営姿勢の淵源は、大平先生というかけがえのないステークホルダーがおられたお蔭だと、ひたすらに感謝あるのみです。

創業期から有能な人材の紹介者

創業者二代の経営陣強化にご貢献

巷間、同族経営とか縁故採用といえ、ネガティブに云々されることが多いようですが、町工場からスタートした創業期に、そのように御託を並べる連中に入社を誘っても入ってくれな

い。それが世間というものです。海のものとも山のものともつかない会社に入ってくれる人は、血縁・地縁以外に誰もいないのです。

先ずは兄弟か親戚、それでも間に合わなくなれば、「地縁」に頼るしかありません。

その役割を大平先生にお願いしたのですから、いま考えると大変ご迷惑をおかけしたものです。通常、代議士先生の就職の紹介案件というものは、選挙区の子女を大手企業にコネで入れて選挙の時の点数を稼ぐことだからです。

大平先生はそんななかで、あえてわが社のためにリクルート役を引き受けて下さったのです。これぞという人材に対し、将来有望な会社であることを伝えて、それに敢えて挑戦するサムライを選び送り込んでくれたのです。お蔭さまでその連中は期待通りに枢要の役割を果たしてくれました。そのなかから馬淵兄弟を支える親族とともに経営陣にその名を連ねてくれる人材が何人も生まれました。この面での大平先生のご貢献も大変に貴重でした。

大平先生が温顔で見守ってくれた

マブチモーター発展小史

前述のようなご縁のお蔭で、超多忙なお立場でありながら、上場前の株主総会には余程のことがない限りご出席をたまわり、毎期の順調な

業績の進展を見守って頂きました。総会後の歓談では、問わず語りに世界の政治・経済情勢のご高見をたまわり、山椒は小粒ながら国際的市場展開の先陣をきっていたわれわれにとり、またとない啓発の機会となりました。

第一期の模型・玩具市場において

世界的地歩を獲得（昭和29年～39年）

そこで先ず、マブチモーター発展の第一期についてですが、戦後の日本の復興期にあつて世界中の子供たちに夢と希望をあたえるプラモデルの模型と電動玩具——それ等になくはならない動力源を提供し、「デファクトスタンダードモーター」として世界の模型・玩具業界の発展に貢献して来ました。その結果、市場占有率抜群の地歩をグローバルに築くことができたことはご案内の通りですので、これ以上のご説明は控えさせていただきます。

大平先生におかれては、マブチ兄弟が約束した第一段階の夢が実現したということ、お褒めと激励の言葉を賜りました。

第二期の内外家電業界への進出

（昭和35年～55年）

この分野への参入に際しては、国内の大手メーカーとの取引当初は苦戦の連続でした。模型・玩具市場での世界的成功による有名税のお

かげで「モーターそのものがおもちゃである」かのような誤解・偏見を与えてしまったからでした。

reality、大手メーカーに持ち込んだシェーバー用モーターの評価は、設計者段階では合格しても、責任者レベルでは「おもちゃのモーター＝危ないあぶない！」ということと不採用のオンパレードでした。

その点で対照的だったのは、欧米の大手電機メーカーの反応でした。そこでは、日本で敬遠された同じモーターが、設計者段階ばかりでなく、むしろ上席者の方が前向きでした。「おもちゃのモーターだ」との偏見どころか、「玩具用モーターの世界ナンバーワンのメーカーだからこそ信用できる」、と実に明快・率直な反応でした。それはどの欧米メーカーにも多かれ少なかれ共通するところで、現実にドイツのブラウン、アメリカのGE、サンビームなど世界で名だたる顧客との契約が相次ぐことになりました。

「欧米有力家電メーカー、マブチモーターを採用」とのビッグニュースは、たちまち日本の業界に伝わり「おもちゃのモーター」との神話は手のひらを返したかのように過去のものとなりました。その結果、日本の大手家電業界からも次々と注文を頂くようになりました。

それは、規模は兎も角、かつてのソニー・ホ

ンダ現象を彷彿とさせるかのような光景でした。その結果、マブチモーターも、内外の家電業界において、シェーバー・ヘアドライヤー・音響機器など家電製品用の小型直流モーターメーカーとして、枢要の地歩を得ることとなりました。その上さらに家電業界を中心に、医療機器、自動化機器その他の関連業界にもその裾野が広がることとなりました。

以上のように第二期の成果につきましても、大平先生よりその達成に祝福のお言葉をたまわりました。

第三期〜大平先生と約束の究極の夢の実現は現在進行形（昭和48年）〜自動車用電装部品として的小型直流モーターの主要な担い手への道〜

そこていよいよ自動車産業への道です。その道に参入するための技術的ハードルは家電業界の時と比べてはるかに高く厳しいものでした。

幸いに、この業界では「おもちゃのモーター神話」の偏見は一切なく、家電業界での前述のような実績を承知して頂いたうえ、対等の立場で公明正大に電装用モーターとしての適否のテストの機会を与えてくれました。まことにありがたいことでした。その誠意に何としても応えようと営業と技術陣が一体となって嘗てない難題に立ち向かいました。その厚い壁をブレイクスルーするための数多の苦労話は紙幅の都合で措

きますが、遂にその夢は実現したのです。試みに、マブチモーターが車の中のどこに使われているか、現時点での主要な部位は、以下の通りです。

- ① ドアミラー・使用モーター5個×左右
2セット＝10個
(ミラー鏡面調整用4個×2＝8個)
(ミラー格納用1個×2＝2個)
- ② ドアロック・2個×左右2＝4個
- ③ エアコンダンパー・6個
- ④ パワーウインド・4個
- ⑤ ヘッドライト光軸調整・2個
- ⑥ パーキングブレーキ・1個
- ⑦ パワーシート・6個
- ⑧ シートベルトロック・2個
- ⑨ ウォッシュャーポンプ・1個
- ⑩ 以上合計・36個（車種により多少の相違あり）

以上の通りですが、実際のところマブチモーターが車の電装用これほど多く使われているのをご存知だったでしょうか。

しかも、その数はこれまでの用途の実績数に過ぎません。これからさらに車の自動運転や電気自動車の普及などを見越すと、まだまだ未来進行形だと申せましょう。

ちなみに、昨年（令和5年）度の会社の販売

実績によると、総売上の78・4%が自動車電装用売上となっております。その数字からしますと、馬淵兄弟が大平先生に語り約束された究極の夢はこの段階ですでに達成している。これもまた、そのように申し上げて過言ではありません。

しかし、この最重要分野での連綿たる成長の軌跡を止める訳にはいきません。その重責は、すでにマブチ兄弟2代に続く3代目以降の経営陣にバトンタッチされています（健全にして先見の明あるオーナシップ経営を馬淵隆一2代目名誉会長の指導のもと、ホンダ・ソニーと同様に同族経営脱皮路線を進めている）。

いまは只、右に見たような創業の精神とその戦略の歴史を踏まえ、後継経営陣が更なる夢の実現に向け全力投球をされるよう心より祈るばかりです。

以上、自動車業界への進出についての大平先生へのご報告は、ごく初期のドアマミラー用モーターの商談状況をお耳に入れたところで、昭和55年成約直前に、惜しまれて急逝されました。そのため、第3期の究極の夢の実現の報告が出来なかつたのは、かえすがえす残念でした。それから25年後の平成2年、健一名誉会長も帰らぬ人となりました。今は天上からお二人でその実現ぶりをご覧になりお喜びいただくとともに、今後のマブチモーターの栄光の発展を見守ってくださいに違いありません。

あとがき

以上、大西事務局長のご要望に応える内容になり得たかどうか、心許ないかぎりですが、勝手な長文になりましたことをお許しください。

本来なら、マブチモーターの市場開拓の歴史を語るとなれば、以上の需要サイドの発展についてだけでなく、それを支えてきた供給サイド＝サプライチェーンの徹底した海外展開についても紹介しなければ片手落ちになります。しかし、限られた紙幅の中でその戦略的ストーリーを述べる余地はありませんでした。そこでせめてマブチのユニークで先進的な海外工場展開の広がりについて、以下の通り箇条書きにて、補足説明をさせていただきます。

- ・ 大平先生のお教えもあり、究極の国際競争を勝ち抜くためには、工場の徹底した海外移転戦略をとること。
- ・ 昭和39年の香港工場進出を嚆矢として、台湾、マレーシア、そして鄧小平の改革開放後の香港工場を拠点としての中国華南地区（深圳・広東・蘇州等）への工場進出、並びに中国東北部の大連に一大拠点を築いたこと。
- ・ 更なる戦略的サプライチェーンの強化策としてベトナム、メキシコ、ポーランドに工

場進出したこと。

- ・ 平成2年には、ついに100%海外生産態勢になったこと（国内需要も海外工場より輸入）。

このように、長年にわたり構築してきた国際的サプライチェーンのネットワーク態勢の完結―それにつきましましては、内外の業界からご信頼を頂き、「そのお蔭で『品質・値段・納期』の国際的競争力条件のメリットを享受できる」との評価をたまわっていることに勇気づけられています。

なお、最後に一言。本稿を纏めるにあたり、マブチモーター時代の先輩で戦友ともいふべき鈴木岩男常務（当時）（海外営業担当、後に経営戦略全般担当）から多くの貴重な知見をたまわったことを申し添え、心より感謝申し上げます。

同氏は大平総理の旧制中学／大学の後輩として、大平先生より、はかりしれないご恩顧をたまわったという大変うらやましいご仁です。マブチ退職後は公益財団法人・大平正芳記念財団の顧問として、九十一歳の今なお、大平総理の顕彰活動に勤しんでおられます。

同氏によれば、又信会と如水会は大平先生を介して兄弟関係にあるとのこと、これを機会に貴会と大平財団との関係を更に強めさせて頂きたいとのことです。大平総理は日本の政治家



藤が谷CCにて。向かって前列左から大平裕(大平幹事長次男)、馬淵保(馬淵社長次男)、中山信之常務、大平正芳幹事長、馬淵隆一専務、鈴木岩男常務(敬称略、役職は当時)

としてめずらしく、「『聞く、読む、書く』を兼ね備えた政治家」(御厨貴東大教授)で、『大平正芳全著作集』全七巻(講談社)が出版されていることはご案内の通りです。ちなみに、大平財団では、その全集等から、今なお通用する諸論考・エッセイ等を選んで『硯滴考』と云う小冊子を年2・3回発行(最新16号)しています。興味ある方は又信会事務局を通じてお申し込み下さい。

その全集の監修をされた福永文夫独協大教授の巻末の解説によれば、母校愛にあふれる大平先生の同窓会誌3誌への寄稿文の本数については、貴誌『又信』宛てが際立っているとのこと。大平総理の貴校への思い入れの深さの証しとして「あとがき」でお伝えするように、との鈴木氏の要請を付記させて頂き、おわりの言葉に代えさせて頂きます。

末筆ながら、又信会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

《事務局からのお知らせ》

1. 中山様からご寄贈いただきました色紙・書籍

(1) 大平元総理直筆の色紙…4枚

左頁「色紙の写真」をごらんください。

(2) 大平元総理関連の書籍…18冊

① 大平正芳 全著作集(1〜7) 7冊

② 大平正芳 回想録(追想編、伝記編、資料編) 3冊

③ 旦暮芥考

④ 永遠の今

⑤ 在素知賢 大平正芳発言集

⑥ 大平正芳 人と思

⑦ 大平正芳 政治的遺産

⑧ 茜色の空

⑨ 大平正芳の中国・東アジア外交

⑩ 大平正芳とその政治 再論

2. 展示場所等…大学側と交渉中

中山様からは「学生さんをはじめ多くの皆様に見ていただきたい」とのご希望を頂いています。

• このため、展示場所等につき、大学側と協議中です。

3. 閲覧をご希望の場合

当会会員

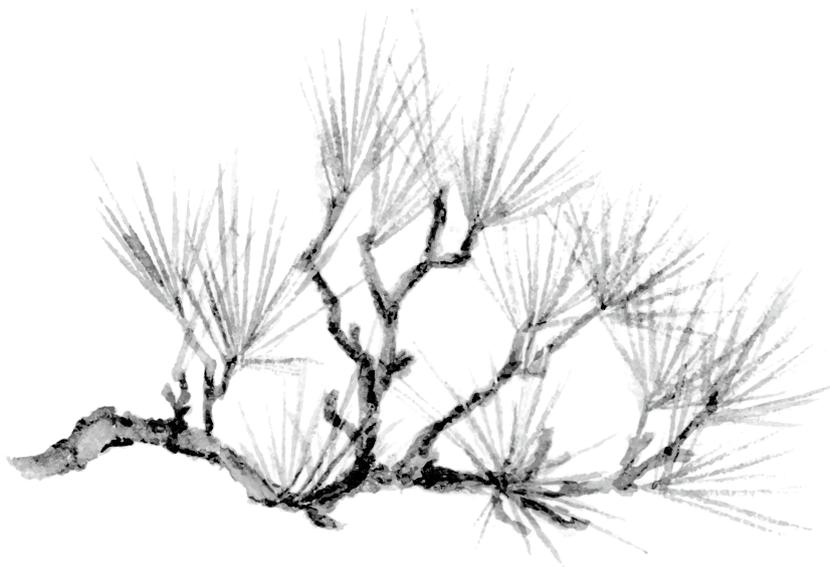
様が色紙・書籍の閲覧をご希望の場合は、事前に又信会事務局にご連絡ください。

事務局で確認の上、閲覧可能な日時等を回答いたします。

[書籍]



[色紙]



【現役学生からの

活動状況報告】

① 経済学部ゼミナール

連合協議会

委員長 矢野 穂 稀

日頃より、本協議会の活動へのご理解とご協力をありがとうございます。

香川大学経済学部ゼミナール連合協議会、通称経ゼミ連は、経済学部生による自治的組織です。現在、4年生19名、3年生11名、2年生12名、1年生20名の計62名で活動しております。今年度は新部員が例年より多く加入し、活気に溢れています。幹部メンバーは、委員長、副委員長、4名の部署長で構成されています。各部署は、渉内部、渉外部、会計部、広報部の4つの部署に所属し、各部署でそれぞれの仕事に日々取り組んでいます。主に経済学部の就職支援活動をはじめ、経済学部の行事など学生生活に欠かすことのできない活動の企画・運営を行っています。本稿では、今年度の活動について述べさせていただきます。

まず、今年度の4月に行われました新入生歓迎イベントについてです。新入生歓迎イベント

として履修登録相談会を開催しました。経ゼミ連部員が、新入生の履修登録をお手伝いするという企画です。大学生になって初めて耳にする「履修登録」をどのように進めていけばよいのか不安に思う新入生は少なくありません。実際、私自身も初めての履修登録は苦労した記憶があります。新入生のそんな悩みを解決するために、2・3年生の経ゼミ連部員が今までの経験を基に履修登録のアドバイスを行いました。また、履修登録の相談以外にも、授業や一人暮らしやバイトなど大学生活について、気軽に相談することができるようになりました。新入生は経済学部の上級生との会話を楽しんでいました。多くの新入生に参加していただくことができ、とても充実したイベントとなりました。新入生にとってこのイベントが有意義なものになっていければ、私たちも嬉しく思います。

続いて、5月に行われましたエントリーシート作成講座についてです。こちらは、3年生向けに行った就活支援イベントです。例年、経ゼミ連のみで運営しているイベントですが、今年度は法ゼミ連と合同で運営しました。対象者を分けての開催に変更いたしました。民間就職希望者向けエントリーシート作成講座を経ゼミ連が担当し、公務員志望者向けエントリーシート作成講座を法ゼミ連に担当していただきました。対象者を絞ることで、それぞれに適したエントリーシートの作成方法を知ることができ、よ

り充実した講座になりました。夏から始まるインターンシップを控えた学生やまだ就職活動のスタートが切れていなかった学生にとって、非常に有意義なセミナーになったのではないかと思います。セミナー開催にあたり、広報や教室予約、予約フォームの作成など多くの仕事があります。幹部メンバーをはじめとし各部署でそれぞれの仕事を分担したため、スムーズにセミナー開催の準備を行うことができました。

そして、8月に行われましたオープンキャンパスについてです。オープンキャンパスは、経ゼミ連全体で企画・運営を行う大規模なイベントの1つです。当日は、猛暑にも関わらず、多くの方にお越しいただきました。6月頃から大卒職員の方々と打ち合わせを始め、本番に向けて約1か月半かけ準備を行いました。昨年度の反省を活かしながら、今年度のオープンキャン



パスを成功させるため話し合いを重ねました。経ゼミ連が企画したイベントとして、入試形態に合わせた質問についてお答えする「大学生に受験について聞こう」や大学生活の疑問・サークルや留学についてお答えする「大学生と自由に話そう」や香川大学の施設を紹介する「キャンパスツアー」などを行いました。いずれのイベントブースにも、多くの高校生にご参加いただきました。オープンキャンパスを通じて、高校生の方々を中心に香川大学経済学部の魅力を知ってもらえたのではないかと感じております。当日は、1年生から3年生の経ゼミ連の全部員が運営スタッフとして参加し、経ゼミ連部員にとつても、貴重な経験になったと思います。また、私自身が委員長になって初めての大事な仕事だったため、本番成功するか不安でいっぱいでしたが、経ゼミ連部員をはじめとし、運営を手伝ってくださった学生プロジェクトのメンバーそれぞれが臨機応変に対応してくださり、無事オープンキャンパスを終えることができ安心しました。

改めまして、経ゼミ連では経済学部のために様々な活動を行っております。経ゼミ連の活動を通して、企業の担当者様や大学職員の方々とコミュニケーションを取ることや、イベントの企画・運営を主体的に行い、責任をもってやり遂げるという経験は、大きな成長に繋がります。私たちは日々、経ゼミ連ならではの経験をたく

さんさせていただいております。この経験は、将来きつと役に立つと思います。委員長として至らない点も多いですが、これからも経ゼミ連のメンバーと共に経済学部のために精進してまいります。私たちの活動がこのように充実しているのは、大学職員の方々、そして又信会の皆様のご協力のおかげです。大変感謝しております。これからも引き続き、香川大学経済学部のために様々な活動を行っていきたくと考えておりますので、私たちの活動をあたたかく見守っていただけますと幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。



② 法学部ゼミナール

連合協議会

執行部 大石 陽紗子

香川大学法学部ゼミナール連合（以下、法ゼミ連）の活動報告をお届けします。私たちは、香川大学生の大学生活を支援することを目的として毎週水曜日に活動しており、今年度も新たに31名の1回生が加入し、ここ数年で最も多いメンバー数となりました。この報告では、4月に実施した新入生履修登録相談会と小豆島での新入生歓迎会、さらに8月に行ったオープンキャンパス運営についてご紹介いたします。

4月の履修登録相談会と新入生歓迎会

4月、法ゼミ連は新入生に対するサポート活動の一環として、履修登録相談会と小豆島での新入生歓迎会を開催しました。履修登録相談会は現2回生が中心となって企画し、小豆島での新入生歓迎会は現3回生が担当して実施しました。

履修登録相談会の準備は2月中旬から始まり、企画書やプレゼンテーション資料の作成、広報活動などを行い、着実に準備を進めてきました。当日は、新入生の9割以上が参加し、大学生活の重要なスタート地点である履修登録に関する

アドバイスが行われました。法ゼミ連生と有志のチューターの協力のもと、新入生が抱える不安を解消し、大学生活の第一歩をスムーズに踏み出せるよう支援しました。アンケート結果では、参加者の8割以上が「満足できた」と回答し、目的を達成することができたと考えています。しかし、班ごとに対応にはらつきがあったこと、また準備段階での連携不足が課題として浮上し、次回以降の改善点として挙げられます。

履修登録相談会で告知した新入生歓迎会は、参加希望者が120名を超えるほどの反響があり、大規模なイベントとなりました。歓迎会は昨年12月から企画が始まり、役職の決定、企画書の作成、会場手配、現地の下見、チューターの手配など、多岐にわたる準備が進められました。小豆島での歓迎会では、学生が企画したウォークラリーやオリープ公園の自由散策など、さまざまな企画が実施されました。ウォークラ



リーでは、新入生同士が協力してゲームに取り組むことで、お互いを知る良い機会を提供し、大学生活の新たな仲間との交流を深めることを目指しました。このような企画を通じて、新入生が自然と打ち解け合い、今後の大学生活に対する期待感を高めることができて感じています。

小豆島新入生歓迎会の成果と課題

新入生歓迎会では、企画の中心を担った現3回生のメンバーが尽力し、新入生同士の交流が活発に行われました。ウォークラリーでは、新入生たちが協力し合いながら島内を巡り、楽しい時間を共有することができました。多くの新入生から「思い出に残る一日になった」との感想が寄せられ、歓迎会の目的を達成できたと確信しています。

しかし、当日は予想を超える人数が集まったことで、特に参加者受付の際に混乱が生じました。この点については、今後の運営においてスムーズな対応をするための改善が必要だと感じました。

オープンキャンパス運営

8月には香川大学のオープンキャンパスの運営にも携わりました。このオープンキャンパスでは、現1、2回生のメンバーが中心となり、来校した高校生やその保護者の受付・案内、そ

して学生企画であるリーガルデイスカッションを行いました。リーガルデイスカッションは、法学部での授業の雰囲気を感じてもらうため、法学的な内容のオリジナル動画を制作し、それを元に意見交換を行うというものです。

当日は、現2回生のメンバーが積極的に進行役を務め、高校生とその保護者が法学の面白さを感じられるよう努めました。ディスカッション自体はスムーズに進行し、参加してくださった高校生も楽しそうに意見を交わしてくれました。しかし、参加者の数が予想より少なかったことが課題として浮上りました。今後は、より多くの高校生が参加したくなるような魅力的な企画を考え、集客方法の見直しや広報活動の強化に力を入れていきたいと思えます。

今後の展望

今回の活動を通じて、私たち法ゼミ連は新生や在学生のサポート活動において多くの成果を挙げることができました。しかし、同時に改善が必要な点も明確になりました。今後は、イベント運営の質をさらに向上させ、参加者全員がより充実した時間を過ごせるような取り組みを行っていきます。また、メンバー間の連携を強化し、より円滑に活動を進められる体制を整えることが課題です。

最後に

これらの活動は、メンバー全員の協力、そして香川大学の教職員の方々や又信会の皆様のサポートがあつてこそ成り立っております。ここに心より感謝申し上げます。今後も、法ゼミ連は香川大学法学部の学生のために、より良いサポートを提供できるよう努力してまいります。



皆様には引き続きご支援とご期待を賜りますようお願い申し上げます。

私たちの活動は、大学生活の中で仲間とともに成長し、学びを深め合う貴重な機会であると信じています。法ゼミ連としての活動を通じて、香川大学法学部全体の活気をさらに高め、学生たちがより充実した大学生活を送れるよう尽力してまいります。

